

## 【ESD実践】彦根市立城北小学校遠足支援 活動報告書

文責：理科教育(文化財化学を含む)専修 修士1回生 佐野宏一郎

1. 日時 平成29年11月7日(火) 10:30~14:30
2. 場所 明日香村
3. 参加者 修士2回生 春日千鶴葉、栗谷正樹(社会科教育)  
修士1回生 佐野宏一郎(理科教育)  
学部4回生 板倉果琳、北側瑞歩、口脇和、谷垣徹(英語教育専修)  
杉田岳史(数学教育専修)  
彦根市立城北小学校 第6学年、教員4名

### 4. 活動支援内容

- 10時30分 飛鳥小学校集合 飛鳥小学校6年生と城北小学校6年生との交流
- 11時15分 飛鳥小学校出発。バスで明日香村に移動。昼食、アイスブレイキング
- 12時15分 野口駐車場着。写真撮影、安全説明
- 12時30分 サイクリングによる遠足支援開始
- 14時00分 サイクリング終了。野口駐車場集合
- 14時30分 榎原神宮前駅到着。城北小学校の教員、児童とお別れ

### 5. 活動支援報告

(事前準備)

彦根市立城北小学校から明日香村を自転車で廻る遠足の支援依頼があり、奈良教育大学の学生が支援に当たった。8月上旬に城北小学校の吉岡先生が本学にお見えになり、支援の概要を話し合った。学生に参加を呼びかけ、8名の参加があった。その内の6名を含む10名で11月2日(木)に事前研修を行った。明日香村を訪れ、当日走行する予定の道を走り、危険な場所や安全なルートを確認し、観光スポットの知識を身に着けた。



グループになったの交流学习

(支援当日)

午前中に奈良市立飛鳥小学校の6年生との交流学习があり、両校の児童がこれまでの学習で調べたことを交流した。彦根市立城北小学校の6年生は、彦根城や井伊直弼などを詳しく調べており、また飛鳥小学校の児童は、古都奈良の文化財について発表した。その後、グループになってお互いに情報交換するなど、子ども同士が元気に交流する姿を目にした。

飛鳥小学校をバスで出発する。バスで昼食をとった後、児童と大学生の間の距離を縮めるために大学生が自己紹介をし、じゃんけんゲームなどのアイスブレイキングを行った。明日香村の駐車場に到着後、安全確認を行い、サイクリングが始まった。6班に分かれ、それぞれに大学生が1人~2人付く形で支援を行った。

サイクリングでは、亀石・石舞台古墳・酒船石・飛鳥寺・飛鳥板蓋宮を案内することが出来た。30分遅れでスケジュールが進行したため、当初ルートに入っていた、鬼の雪隠・俎と高松塚古墳を省略するなどのルート変更などを行い、時間短縮を図った。しかし、子どもたちは初めて見る飛鳥の石造物に驚きがあったようである。子どもの柔軟な視点で想像・発見する様子は、私たちにとってはとても新鮮で大変興味深く勉強になった。



飛鳥大仏の前で

飛鳥の石造物は、使用用途のわからない謎の石造物がたくさんある。今回案内した石造物でも、石舞台古墳は被葬者が誰だったかは解明されていないし、亀石や酒船石はその存在自体が謎である。このようなことを子どもたちに説明すると、「また、謎？」と解明しきれていないことに不満のようにも見えたが、謎だからこそ、考えるということを楽しんでいたようでもある。酒船石では、子ども一人が「ここに穴があって、最終的に窪みになっているから、上からここに水を流していたんじゃないかな。」と他の子どもたちに話していた。学術的には間違っているのだが、子どもたちが謎だからこそ想像される様々な推測を、今残された手掛かりから自ら主体的に考えていこうとする態度は、非常に重要なことだと感じた。また、逆に正しいことを教えることは、考えていたプロセスをすべて否定することに繋がる恐れがあるとも考えられ、そういった状況での子どもたちとのかかわり方を見直していく必要があると感じた。今ある情報を結び付けて、自らが納得のいく解釈を行う

ことが、知識の構造化・考える力の育成につながると思われる。されに自分の解釈を友達にぶつけ、互いに意見を述べ合うことで、より深い理解に向かうこともあるだろう。このように、子どもと関わる中で、学生にも多くの学びがあった。大きな事故や怪我などもなく安全に活動を終えることができたことも大きな成果である。



明日香村を児童と駆け巡る